

特集 地域文化の振興

巻頭言 8 地域文化振興のために 三善 晃

座談会 10 まちづくりにもみる

地域文化振興

——出席者 佐藤克明／杉村信夫／熊倉純子／諸井 誠／（司会）甲野正道

論文 20 公立文化会館活性化への課題と展望

千葉和廣

エッセイ 24 広島と市民オペラ

原田康夫

事例紹介① 26 人形劇を生かしたまちづくり

長野県飯田市教育委員会

事例紹介② 30 異世代・異文化との交流による

子ども文化の創造を中核として

沖縄県佐敷町教育委員会

事例紹介③ 34 近松にロマンを求めて

近松祭 in 長門

山口県長門市教育委員会

解説 38 文化庁の地域文化振興に関する施策

文化庁文化部地域文化振興課

Q & A

48 芸術文化振興基金による地域文化振興活動への助成

日本芸術文化振興会基金部

50 ● 千葉県習志野市立秋津小学校を訪ねて

カラー

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ねて

石川啄木記念館（岩手県）

4 この道を行く

東目筋・大口筋白銀坂

表2 誌上展示室

韓国の喪興

表3 文化財紹介

有東木の盆踊

6 私と教育、私とつけ 松村邦洋

58 焦点―文教施策

60 中教審ニュース

63 マンガで見る教育の情報化

64 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

66 レッツ トライ！ 青森県・滋賀県・広島市、福岡県

68 めざせSDニ―五輪 国立那須甲子少年自然の家

70 全国子どもフラン カヌー

子ども科学・ものづくり教室

72 総合的な学習の時間 の全国展開

大阪教育大学教育学部附属 平野中学校

74 海外教育ニュース

76 ランチタイム 大分県久住町学校給食共同調理場

78 インフォメーション

鑑賞席

82 編集後記

84 編集後記



みよし・あきら 東京都生まれ。大学在学中1955～58年仏政府給費留学生としてフランス留学。
1963～2000年東京芸術大学講師。
1966～95年桐朋学園大学教授。74～95年は学長。
1997年東京文化会館館長（現）。
1999年日本芸術院に入会。

実際、プロ、アマを問わず全国の数多くの文化活動のほとんどが、計画から成立・定着までのすべての過程で挫折の危機に遭遇している。資金、助成の欠如または不足。活動維持条件の貧困、劣悪。会場難（適性会場の不足と高額）。入場料設定と観客動員のジレンマ。宣伝費の枯渇とメディア・ギャップ。ボランティアの限界：すべてが不十分のなかで、当

発信の基地に、街起こしの核に、と。だが、地域生活者の「我が文化」というコンセプト（胎内に宿すもの）は複合的であり、ときには分裂し対立する。地域の文化ホールなどが自主事業の企画・展開に苦勞し、しばしば多目的無目的と批判される一因はここにもある。一九八〇年代の調査だが、日本人が日常接する音楽は六〇種以上もあった（上位三位は演歌、歌謡曲、民謡、続いてポップスなどの軽い音楽系、オペラが四〇位、最後に浪曲など）。文化振興に関わる組織は国、地方自治体、文化施設、メディア諸組織、芸術家・団体、市民活動体、民間企業などだが、文化の潮流の実質は、潮流のなかにいて潮流を動かしている個々人なのだ。地域文化振興のためには、まずこの複雑な現実を踏まえる必要がある。

その現実把握のために、地域文化の実態を例えば①伝承される芸能、②日常生活の楽しみ、③意識的な芸術享受、④参加型活動、⑤体験・生涯学習、⑥新たな伝承の創造、のように弁別する必要がある。これらは重複も混雑もするが、それを含めてその実態を、現在を原点とする座標軸として描くことができれば、そこに地域文化の過去からの継承と未来への継続の見取り図―地域の特性・指向性―が浮かび上がるだろう。未知数への試みも投企され得る。座

標軸は、国際的な視野も含めて様々な同心円を描く。遠隔地と直結あるいは合致するものもあるはずだ。潜在的な観客の発掘、マネージ研修、舞台の共同制作、子どもの教育プログラムなど、運営課題や事業企画として協同可能な共通項が見いだされるかもしれない。

一例だが私は八年前、福岡、宮城、長野で和太鼓の作品を（それぞれに笛、合唱、踊り、語り、能楽城の復元など地域の伝承を織り込んで）創った。世代を超えた市民グループが練習と公演を重ね、来夏にはこの三地域の発信が東京で合流する。発信は前記類別の④⑥だったが、活動の実態は①から⑥までのすべてを含んでいる。振り返ると、ここに不可欠だったものは市民の自発性、自治体の支援、民間の協力、専門家の協同、そしてすべての関係者の熱意と努力と連帯意識だった。換言すれば、地域の文化活動は、そのどれが欠けても成就しない。

地域文化はそれぞれに多様だ。祭りや芸能はもちろ

ろん、景観や街並みや特産物なども、地域固有の風土・歴史と相俟って立派な地域文化だ。東京ですら、七夕や秋祭りの頃になると、かつての下町や武蔵野の其処此処の顔が現れる。これは日常生活とは異次元の季節の風物詩だが、それらハレ（祝祭）の風習はそれぞれの地域のケ（日常）の潜在意識と脈絡している。地域文化の振興とは、その文脈を意識的に守り育て、そこから新しい伝承を生み出すことだ。だがその文脈は、決して自明でも単純でもない。

作曲家・東京文化会館館長 三善 晃

地域文化振興のために

巻頭言

▽今月の特集では、地域における様々な文化振興の現況と、その課題等について紹介しています。

事例紹介をみると、初めは小さなイベントでも年数を経て地域の文化として定着していくことがあるようです。皆さんの周りの地域でも様々な行事が行われていると思いますが、その中にはいづれ文化として定着するものがあるかも知れません。

▽「地域文化」とまではいかなくても、地域で行われる季節の行事も多くあります。我が家の娘の通う保育園でも先日夏祭りが行われ、園庭を開放して近所の子どもも自由に参加していました。保護者や先生方の手作りの出店や出し物が並び、浴衣や甚平を着た子どもたちで祭りの雰囲気も十分でした。

四季折々の行事は日本の文化とし

てこれからも大切にしていきたいものです。

▽さて、我が家の娘（一か月）は「あと追い」が始まってしまいました。一瞬でも母親の姿が見えないと不安で大泣きしてしまいます。パパが早く帰った日や休日は娘はパパとお風呂に入るのですが、母が顔を引つめたあとにたんにぎやーと大泣き。

近所の方に「虐待か？」と思われかねない泣き声です。泣かれたパパも泣きたい気分、トイレにすら入れないママも泣きたい気分です。成長の一過程なのでいづれ治まるのを待つばかりです。

▽今年の夏は例年以上に暑い酷暑です。室内外の気温差による冷房病や暑さによる熱中症も増えているとのこと。体調には十分気をつけたいですね。

(Y・K)

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んだ感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定
①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせていただくことがあります。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2
文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部
※電子メールでも受け付けております。

●「文部時報読者アンケート」
文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。
宛先名「jiho@monbu.go.jp」

コンピュータネットワークを利用した文教行政の広報

文部省では、我が国の文教施策等を広く皆様を紹介するため、インターネットホームページを利用して情報を提供しています。また、子どもホームページ試行版を設け、情報を提供しています。

ホームページアドレス：
<http://www.monbu.go.jp/> (半角入力)
子どもホームページアドレス：
<http://www.monbu.go.jp/kodomojp/index.htm>

MESSC. 61 月刊

文部時報 8月号

第1491号

- 著作権所有——文部省©
- 発行所——株式会社 きようせい
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 03-5349-6666(営業部)
URL <http://www.gyosei.co.jp>
- 印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成12年8月10日印刷
平成12年8月10日発行

定価610円(本体581円)(¥84円)
年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 2000 ISSN 0916-9830 ●この刊行物は再生紙を使用しています。